

第5学年 国語科指導案

令和元年9月6日（金）2校時

5年生教室 横山 和広

1 単元名 書き手の意図を考えながら新聞を読もう 「新聞記事を読み比べよう」

2 単元の目標

記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。

3 学級の実態

本学級の児童は、QUテストの結果からも、学級への満足度や友だち関係に満足している児童が多く、ペアやグループ学習では友だちと積極的に関わりながら学習に取り組む様子が見られる。NRT学力偏差値(国語)においては、「読むこと」については、他の領域と比べると通過率が低かった。このことから、文章の内容の中心を的確に押さえながら読み取る力に課題が見られることがわかった。ほとんどの児童が普段新聞を読んでいないという実態を踏まえ、単元前に教室に新聞を置き、新聞記事への興味を高めることとした。

4 学習指導計画 (総時数 6時間)

時	主な学習内容
1	○ 新聞の特徴や構成など、新聞について知っていることを出し合う。 ○ 新聞記事の書き手の意図を読み取るという学習課題について確認する。
2	○ 教科書を読んで新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割について理解する。
3・4 (本時 4/6)	○ 二つの新聞記事を読み比べ、内容の共通点や相違点をノートなどに整理する。 ○ 見出しやリード文、本文などを比較し、書き手の伝えたいことを読み取る。 ○ 写真を読み解き、その効果を考える。
5・6	○ 記事の内容と写真から読み取った書き手の意図を踏まえ、効果的な見出しを考える。 ○ 記事に付けた見出しを互いに読み合い、感想を交流する。 ○ 単元の学習を振り返る。

5 研究主題を受けて

(1) つけたい力

・記事と写真との関係に注意しながら、書き手の意図を読み取る力。

(2) 主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

○ 主体的な学びのために

単元で身につけさせる力を明確にして、見通しや目的意識をもって学習に取り組めるようにするために、単元を通して「問い」をもたせながら学習を進める。

○ 対話的な学びのために

友達と書いたことや考えたことを交流し、話し合う目的を明確にしたペアやグループでの対話を取り入れ、自信をもって話し合い活動に取り組めるようにさせる。

○ 深い学びのために

「自分の考えを書く」という個々の学びの過程を確保してから対話的な学習に取り組ませる。また、児童が主体的に「問い」を持てるような課題提示と発問構成を工夫する。

6 本時の目標と評価

【目標】○ 二つの新聞記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容を読みとることができる。 [読む]

【評価】○ 二つの新聞記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取っている。 [発表・ワークシート]

7 本時の研究の視点と手立て

視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

① 対応表を用いたワークシートの活用

書き手の意図を読み取る力を児童につけるために、新聞記事に書かれている四観点(①見出し ②リード文 ③写真 ④本文)の相違点を、対応表を用いたワークシートに記入させる。

視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

① 互いが高まる伝え合う活動の工夫

対応表を用いたワークシートをもとに、A社とB社の記事の主役は何かを考えさせ、「アユ」か「川」か、記事の主役を判断した理由をグループで話し合い、互いの考えを交流することで、書き手の意図を明らかにする。その際、個人で考えた考えをペアで伝え合う活動を設定して、各々の児童の意見に自信をもたせてからグループの話し合い活動を行うようにする。

視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

① 深い学びにつなげる発問構成の工夫

全体の話し合い活動において、それぞれの記事について書いた人が一番伝えたいことは何かを考えさせる。さらに、「A社とB社の写真を入れ替えたらどうかな？」と教師が発問し、記事の主役を判断した理由が明確化させることで、写真と本文とを関係付けて書き手の意図に迫ることができる。と予想される。

